



平成 30 年 2 月 20 日

各 位

会 社 名 株式会社免疫生物研究所
(コード番号: 4570)
本店所在地 群馬県藤岡市中字東田 1091 番地 1
代 表 者 代表取締役社長 清 藤 勉
問 合 せ 先 取締役事業統括推進本部長 中 川 正 人
電 話 番 号 0274-22-2889 (代表)
U R L <http://www.ibl-japan.co.jp>

株式会社生命科学インスティテュートとの新規SSEA-3抗体 の製品販売に係る契約締結について

当社は、株式会社生命科学インスティテュート（代表取締役社長：木曾誠一、東京都千代田区、旧株式会社Clioを平成29年1月1日付で吸収合併。以下「LSII」という。）と共同で、Muse細胞の分離・精製等に関わる研究を続けてまいりました。

（平成26年6月2日付発表「株式会社Clioとの再生医療事業に関する共同研究実施について」を参照）

現在、Muse細胞のマーカーの1つとして、受精卵やヒトES細胞で発現するSSEA-3(Stage Specific Embryonic Antigen-3)が用いられておりますが、この度、当社が長年培ってきた抗体作製・細胞培養に関する知識と技術を最大限に活用し、LSIIとの共同研究の成果として、SSEA-3に対する特異的なIgGクラス新規抗体を作製することに成功いたしました。

その結果、当社とLSIIは、大学や製薬企業等の研究機関へ当該新規抗体を販売するために販売許諾契約を締結しましたので、お知らせいたします。

今回の成果につきましては、平成30年3月21日から開催の再生医療学会、および3月23日から台湾で開催のPPSSC (Pan Pacific Symposium on STEM CELLS & CANCER RESEARCH) にて、共同発表を行う予定です。

なお、当該新規抗体の販売における、平成30年3月期の業績に与える影響は軽微ですが、平成31年3月期以降は当社の収益に寄与することを想定しております。

【ご参考】

Muse細胞 (Multilineage-differentiating stress-enduring cells) は、間葉系組織に存在する多能性幹細胞で、外胚葉（神経、皮膚など）・中胚葉（筋、骨、軟骨など）・内胚葉（肝臓、膵臓など）の三胚葉すべてに分化する能力を兼ね備えております。Muse細胞は、損傷部位に集積・生着し、組織特異的な細胞に分化することで、損傷を受けた組織の構造や機能を修復することが論文報告されており、Muse細胞を主成分とする再生医療製品は、安全で治療効果の高い医療の実現に寄与するものと期待されております。

なお、既存の抗SSEA-3抗体としてはIgMクラスの1クローンが市販されていましたが、今回、初めてIgGクラスの抗体をLSII・当社で開発致しました。

以上